

たんぽぽ



卒業する39回生

デジタル認知障害

校長 塩川 哲男

「やめましょう、歩きスマホ。」というポスターが地下鉄の構内に貼ってあった(図)。たしかに地下鉄のホームや車内では本や新聞を見ている人より、スマートフォンを見ている人が圧倒的に多いし、歩きスマホをしている人も少なくない。

前傾姿勢を続けていると、首に負担がかかる(スマホ首)のと、目にも良くない。さらに、デジタル機器による「情報の洪水」が脳の働き(認知機能)に影響し、「デジタル認知障害」を引き起こすことが知られてきた。東北大学加齢医学研究所の研究では、1日のSNS利用が1時間以上の子供は利用時間が増えるほど数学や国語の点数が低かったという。大人のスマホの使い過ぎでは、脳の中を整理する時間(デフォルト・モード・ネットワーク)といつて創造性に関連)がなくなり、「脳の中がゴミ屋敷のようになる」という(奥村歩 おくむらメモリークリニック院長)。対策として、1〜2時間間頭を使う仕事をしたら、5〜10分「ぼんやりタイム」を作る。また、計画的に単純作業をしたり、スマホを持たずに散歩することも効果的という。70歳になった私の人生のなかでも、パソコンとの付き合いはただかか30年余り、マイナ保険証が示す通り医療DX(デジタル・トランスフォーメーション)もバラ色の未来を約束する保証はない。

卒業して臨床現場に出る皆さんには、アナログなものも大切にして、「顔を上げて」患者さんと接してほしいと思う。



看護学科
39回生
(3年生)

卒業おめでとう ございます

統合実習

10月下旬から3週間、3年生最後の実習となる統合実習が行われました。多職種連携や地域における看護の役割、継続看護の重要性など、多くのことを学んだ実習となりました。
ご協力いただいた各臨床の皆様、ありがとうございました。

看護管理実習

実習の学びを
模造紙にまとめて
発表・交流しました。



複数受け持ち実習

複数の模擬患者さんを受け持ち、実際の看護師のように思考し、実践する難しさを学びました。



日々のカンファレンスでは
臨床指導者さんから、
助言をいただき学びが
深まりました。



嚥下の様子を
丁寧に観察
しながらの
食事介助



各領域実習・最終クールの 老年看護学実習II期の様子

39回生の皆さん、ご卒業おめでとうございます！

あっという間の3年間でしたね。卒業の日を迎え、皆さんはどのような思いを抱いていますか？私にとって、初めて担任を務めたクラスが39回生であったことは、本当に幸せな経験でした。皆さんから多くのことを学ばせていただき、感謝の気持ちで一杯です。

これからは職場や対象者の方々との出会いを通じて、看護職としてさらに成長していくことなのでしょう。辛い時には、仲間と励まし合った日々や、看護師を目指した原点を思い出してください。3年間積み重ねた努力を自信に変え、それぞれの道を力強く歩んでいってください。

卒業後も皆さんを応援しています。どうか健康に気を付けて、皆さんらしく輝き続けてください。

担任 干場



クラス長 竹山
副クラス長 工藤

39回生は、新カリキュラムの中で、実習や講義に積極的に取り組んできました。普段は個性豊かなクラスですが、体育祭等の行事では全員が一致団結して勝利を目指すことができ、そこで育んだ絆を活かして、看護の勉強も互いに助け合いながら乗り越えてきました。3年間、看護について仲間とともに考え続けた学生生活はとても楽しく、思い出深いものとなりました。これからも看護の学びを深め、患者に寄り添った看護を提供していきたいです。

総合ゼミナール

統合実習で取り組んだ、「SDH探求実習」のグループレポートを発表しました。



2G



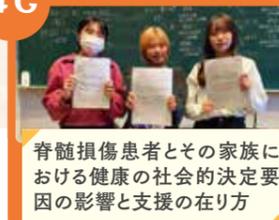
健康の社会的決定要因の視点から考える社会的支援の重要性

3G



小児の健康を守る継続した支援

4G



脊髄損傷患者とその家族における健康の社会的決定要因の影響と支援の在り方

5G



安心して育児に向かうための切れ目ない支援と看護の重要性

健康の社会的決定要因（SDH）が対象に及ぼす影響を探求する「SDH探求実習」とおし、基本的人権を護る看護の役割を学びました。3年次に受け持った事例からSDHを探求し、看護の役割を考え仲間と学び合ったこの経験は、それぞれの看護観を深め、かけがえのない財産となりました。

1G



意思疎通困難となった患者の意思決定支援

6G



多様な背景に寄り添った継続看護

7G



経済的な困窮がもたらす健康問題

8G



2つの事例から考える現在の社会問題とSDHの視点

9G



社会的ハイスクにある妊産婦が安心して子育てを行えるための切れ目ない社会的支援

10G



健康の社会的決定要因と対象の想いを尊重した健康支援

看護師国家試験 応援メッセージ



（勤医協札幌病院）

（勤医協中央病院）



（勤医協苫小牧病院）



合格



（勤医協札幌西区病院）



実習や講義でお世話になった臨床からたくさんの応援メッセージが届きました。





仲間とともに学び合い 看護の視点を広げていきます!!

沖縄研修旅行 10月21日~25日

沖縄に到着!! 暑くてすぐに半袖になりました~

研修旅行委員メンバー

私たちは5日間の沖縄研修旅行で沖縄の歴史や戦争・戦時中の医療について学びました。ひめゆり平和祈念資料館では当時の沖縄戦の悲惨さや平和の尊さを学び、沖縄陸軍病院南風原壕群20号では戦時中に実際使われていた壕の中を見学してきました。沖縄の歴史や戦争・医療だけでなく、美ら海水族館などの施設に訪れ、沖縄を観光したり、フリータイムで仲間たちと自由に沖縄を満喫したりすることができ、より仲を深めることができました。

研修旅行委員としてメンバー達と一緒に事前にニュースの発行やパンフレットを作成しました。現地では、点呼の確認を行い無事に研修旅行を終えることができました。

研修旅行委員長 乗田



首里城公園

平和ガイドさんの案内で首里城公園の見学をしました。第32軍陸軍司令部が首里城地下にあったため米軍から攻撃を受け首里城が破壊されていった歴史を学びました。



嘉数の丘からは学校や住宅に基地が隣接しているのが見えました。



ひめゆり平和祈念資料館



元ひめゆり学徒隊の方の戦争体験の動画や資料館の見学をして戦争の恐ろしさについて、学びました。

沖縄陸軍病院南風原壕群20号



実際に壕内に入り見学しました。壕内は暗く、戦時中は劣悪な環境の中、医療が行なわれていたことに、驚きました。

飯上げの道



ひめゆり学徒隊が戦時中砲弾が飛び交う中、命がけで通った山道です。私達も、当時の様子を思いながら険しい道を実際に登りました。

美ら海水族館



沖縄のきれいな海にも戦時中はたくさんの米軍の艦隊が押し寄せてきました。



楽しくビュッフェ

旅行最後の日には、会沢芽美さんのライブ♪



夕食会では、沖縄民謡に合わせてみんなで踊りました。

成人看護学実習Ⅱ期・老年看護学実習Ⅰ期

9月に実施した成人看護学実習Ⅱ期では、成人期の特徴や役割を考え、仕事や家族背景、病気に対する思いを聴き看護を実践しました。

老年看護学実習Ⅰ期は11月に実施しました。加齢的変化や生活を捉えながら対象に合わせた援助や療養指導を行うことができました。



日常生活や食事についてのパンフレットを作成しました。

カルテからも情報収集



カレンダーを作り、毎朝患者さんと一緒に日付の確認をしました。



在宅酸素療法についてパンフレットを手作りして説明しました。

実習がんばりました!



演習風景

2年生後期になりより専門的な演習が増えてきました。事前に動画を視聴し技術カードを作成して演習に臨んでいます。

洗腸

腹部の観察も大事!



経管栄養法

栄養剤はあってるかな? 指示簿と確認!



夏休み明けから、成人看護学実習Ⅱ期と老年看護学実習Ⅰ期に臨みました。成人看護学実習Ⅱ期では、夏休み中に模擬事例に取り組み学習を深め、臨床で初めて看護過程の展開を行いました。看護問題の抽出や個性のある看護計画を立案することに難しさを感じつつも必死に取り組んでいました。生活と労働の視点から健康を捉え、必要な看護は何かを考えることができました。

老年看護学実習Ⅰ期では、高齢者の特徴や複合している病態と症状に戸惑いながらも対象や家族についての看護を考え実践に活かしていくことができました。

10月には待ちに待った沖縄研修旅行。「研修旅行」ですので、事前学習にもしっかり取り組み、戦争の悲惨さや戦後も続く基地問題、環境や健康被害など現地に行き平和と医療について考え、学びを深めることができました。自由行動の夕食やフリータイムには沖縄を満喫することができたのではないのでしょうか。

あっという間に今年度も終盤戦。冬休み明けからは国家試験オリエンテーションをおこない、国家試験合格に向けての学習も進めていけるよう応援していきます。

担任 身崎

看護学科 41回生 (1年生)

仲間とともに看護の基礎を 一歩ずつ学び進めています

9月

基礎看護学実習Ⅱ期



最終日に
職員さんから
温かい応援メッセージと
お菓子をいただきました

演習の様子

日常生活援助技術ゼミナールに向けた演習では、麻痺のある患者さんや自力体動が困難な患者さんなどを想定し、対象の状況に合わせた療養生活を支える看護技術を、仲間とともに学んでいます。



生命活動演習

既習の知識を踏まえ、循環器の仕組みとほたらきや消化器の仕組みとほたらきなど、8つの系ごとグループに分かれ協同学習を通し「人間の身体の恒常性」や「構造と機能」について深めクラス交流しました。



1学年41回生は、9月下旬、基礎看護学実習Ⅱ期で初めて患者さんへバイタルサイン測定を行いました。緊張しながらも患者さんと接する楽しさと難しさを実感しました。学内に戻り、実習の学びをレポートにまとめ、クラスで発表し学んだことを共有することができました。11月に行った生命活動演習ではグループ学習の難しさと学習したことを伝える大変さを実感しつつも、看護の対象である人間を理解することの大切さについて考えることができました。12月に入り日常生活援助技術ゼミナールの取り組みが始まりました。安全安楽な看護技術についてグループで検討し、冬休み中も練習に励んでいました。緊張のゼミナール発表が終わったあとは基礎看護学実習Ⅲ期に入ります。冬休みの前後にはたくさんの科目の認定試験もありました。やるべきことが多いスケジュールですが、体調に気を付けて、楽しんで学校生活を過ごしてほしいと思います。

担任 小田

学 校 行 事

ナーシングセレモニー キャンドルサービス



キャリアビジョンの発表



先生のキャンドルから
火をもらいます



臨床で働いている
卒業生からの花束贈呈



自治会の先輩方が
準備を進めてくれました



11月29日に1年生(41回生)のナーシングセレモニーがおこなわれました。看護の学びを進める決意と抱負を一人ひとりがキャリアビジョンとして発表しました。自治会主催のキャンドルサービスでは、みんなの晴れやかな顔が照らし出され素敵な会となりました。

勤 看 祭



実行委員が頑張って
準備してくれました



ピニャータで
盛り上がりました



11月22日に伏古地区センターの体育室を借りて勤看祭を行いました。実行委員のみなさんが企画を考え、進行してくれました。ゲームもステージもとても盛り上がり、楽しい交流の時間になりました。



カオナシも
登場



第6回学習交流集会



3学年が集まり6つの分散会で交流しました。

1年生は初めて患者さんを担当した臨地実習の基礎看護学実習Ⅱ期での学び、2年生は看護過程の展開に挑戦した成人看護学実習Ⅱ期での学び、3年生は統合実習での健康の社会的決定要因(SDH)探求実習での学びのレポートを発表しました。座長を担当した3年生の上手な運営で、学年を超え活発な意見や感想を交流しあうことができていました。

高等教育無償化を訴える議員懇談に参加

勤医協が加盟する民医連(全日本民主医療機関連合会)は高等教育の無償化、学生の負担軽減を国にもとめて、取り組みをしています。11月27日に民医連の全国の看護学校の学生と国会議員がリモート交流しました。本校からは自治会の執行委員が参加し「物価高で生活が苦しい」「実習のときの交通費負担が大変」といった要求を訴えました。



ご卒業 おめでとう ございます

39回生の皆さまご卒業おめでとうございます。

3年間、授業や実習で学んだ成果が発揮される時がきましたね。これからはこれまで苦楽を共にした友人と離れて活動することになります。緊張や期待、不安などさまざまな感情があるかと思いますが現場では先輩方が温かく迎え入れますので安心して職場に来てくださいね。一緒に働ける日を楽しみにしています。



勤医協札幌西区病院 2 病棟

看護主任 三上 優香

39回生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

3年間でたくさんの事をクラスメイトと乗り越えてきたと思います。

看護師への道のりはこれからです。大変な事・辛い事もありますが、それを吐き出しながらその分、頑張った事や学んだ事をプラスに捉えてチャレンジして行って下さい。今後のご活躍を応援しています。



勤医協中央病院 3 東病棟

看護主任 山田 優希・西川 司

39回生の皆さんご卒業おめでとうございます。

3年間、皆さんの経験した頑張りが、今後の人生においての糧になっていく事と思います。

就職される方、進学される方、様々な進む道があると思いますが、自身を信じ目標に向かってこれからも前に進んで行ってください。今後の皆さんのご活躍を陰ながら応援しています。



勤医協札幌病院 4 病棟

看護主任 中村 みどり

3年間、様々な経験を乗り越えて頑張ってきた39回生。個性豊かなみなさんが、その個性を大事にしながら、クラスの団結を強めて成長していく姿がとても頼もしかったです。これからも、自分自身を磨き、そして、自分らしく進んで行ってください。「前程万里」…これからが始まりです！長い道のりを焦らずに進み、豊かに成長をしていくことを願います。

Beginning of a bright future! (輝かしい未来の始まり!) ㊦ 卒業おめでとう

勤医協福祉会 柏ヶ丘訪問看護ステーション 能登 佳司恵



編集後記

「いちは平等」が医療に携わる私たちの信条です。「学ぶことも平等」です。高等教育無償化は世界でも当たり前という考えになっていきます。国際人権A規約では教育は「すべての者に対して機会が与えられる」とし、日本国憲法26条では「ひとしく教育を受ける権利」とされ、学びたいすべての人に教育の機会均等を実現することが国の役割です。しかし日本の教育予算は先進国中、最低レベルで学費負担はとも重いために経済状況によっては、進学を断念せざるをえないのが現状です。

「高等教育の無償化」として、2020年より「大学等における修学の支援に関する法律」による高等教育の修学支援新制度が開始されました。一定の学費減免と給付奨学金が実現しましたが、所得と学力による条件がつけられました。昨年から新たに理工農系学部に通う学生および3人以上を扶養する多子世帯の学生が対象となり、今年から多子世帯は所得制限なしに適用されることになったのは、無償化を求める国民の運動の力です。もっと対象世帯を増やし給付を充実させていくことが必要です。

2024年全国看護学生アンケート調査には955名の看護学生から回答がありました。物価高騰のなかで、保護者の収入の減少、アルバイトによって生活せざるをえない実態、生活困難の状況が広がっていることが明らかとなりました。実習に行くための交通費も値上がりしています。本校が加盟する全日本民医連は学費無償化と看護学生支援を国に求めています。みなさんとこれからの看護学生のために一緒に取り組みましょう。(田沢)

〈編集委員〉

佐藤幸子 伊達深晴 久保田千香子

学校通信「たんぼぼ」は1981年の発行にあたって、勤看での学びをそれぞれの地で花さかせようという願いをこめて名づけられました。



インスタはじめました



@KINKAN_SAPPORO

HPのQRコード

